

ロータリーの青少年奉仕

今月は青少年奉仕月間となっています。次週は地区・危機管理委員会の黒田建一委員長をお迎えして青少年委員会アワーが予定されていますので、本日は、その予備知識として青少年奉仕について述べたいと存じます。

ご周知の通りロータリーの五大奉仕部門は、クラブ定款の第6条で規定されています。そこには、「ロータリーの五大奉仕部門は、本ロータリークラブの活動の哲学のおよび実際的な基準である」とあり、「ロータリーの奉仕」を便宜的に区分したものであることが示されています。青少年奉仕は、奉仕の第5部門として2010年に追加され、一時、新世代奉仕と称されていましたが、2013年から再び青少年奉仕に改称されました。

青少年奉仕は「指導力養成活動、社会奉仕プロジェクトおよび国際奉仕プロジェクトへの参加、積極的世界平和と異文化の理解を深め育む交換プログラムを通じて、青少年ならびに若者によって、好ましい変化がもたらされることを認識するものである」と規定されています。

ロータリーは、此れに基づき、30歳までの青少年を対象に、健康、人間の価値、教育、自己啓発などの基本的ニーズを支援するプロジェクトを奨励しています。

RIの常設青少年奉仕プログラムには、インターアクト、RYLA、ロータリー青少年交換、新世代交換があります。これらは、多くの青少年が将来リーダーとなるスキルを身に付ける為、地域のプロジェクトや指導力開発研修、文化交流に参加して、ロータリアンから倫理や親睦の理念を学び、その結果、自分と世界について新しい発見をすると期待されています。

青少年奉仕に関しては、ハラスメントが横行する昨今の風潮から、次世代のリーダーシップ育成という本来の目的に加えて、青少年の危機管理が重視されるようになって来ています。一方、指導する側も過度にハラスメントを意識する余り、社会全体で「叱れない、指導できない」文化が定着して来ました。Z世代と呼ばれる最近の若者は、AIやIT教育の進化などにより我々の世代と乖離が拡大し、青少年を理解することが困難になって来たと感じます。

ロータリーの奉仕は、人格を磨き、心を涵養することにあります。ロータリーが青少年を指導育成するに当たっては、ロータリアンが、現代の青少年を理解することが出発点になります。この理解がないと、奉仕のニーズも把握できません。その為には、青少年との交流の機会を増やし、彼等の抱える課題や思想や将来の目標についてもっと知ることができればと考えます。